
エロエロブラックナイト

野中つかさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

プロローグ（前書き）

この小説はオリジナル作品です。私の作品にケチつける方は直ちにゾウとキリンとカバと友に戯れてお帰りくださいな。それでもよい方は、ライオンと戯れてください。

プロローグ

俺の称号はレッドマスケッター。世界で有名な銃士だ。名前は捨てた。

俺は奥さんと娘のために、この城でこつこつ働いている。

さあ！ 今日も張り切って仕事をやるぞ！！

と、いうわけで王様に呼ばれたので王室に行くことにした。

「お主、最近浮かれておらぬか？」

「いえ、滅相もない！」

勿論浮かれておりますとも！

「そうか。レッドマスケッター。今からグレートドラゴンを倒しに行ってくれないか？ ていうか行けよ」

「何ですと！？ あのネットで話題の、あのグレドラですか！？」

「そうだ。今ネットの掲示板で調べたところ、グレドラに賞金がかけられた」

「何と！ またどうして！」

「どうやら最近幼女を誘拐しては、飴やらお菓子を上げて返しているそうだ。そんなことをしたら、ワシ達に幼女が振り向かぬではないか！ と、いうわけで、賞金をかけられてたそうだ」

「何と下劣な……おのれ、グレドラめ！ 許せん！ 王よ！ どうか私目にグレドラを退治させてくだされ！」

「百も承知よ。では行け！ レッドマスケッター！ ロリコン民の運命は貴様に懸かっている！」

「はっ！！」

今、俺はグレドラの住処の洞窟の中にいる。

「おい！ 隠れてないで出てこんかい！ グレドラさんよお！」
挑発かけるようにグレドラを呼んでいると、

「なんじゃいボケがあ！ 貴様、誰の許可下りて入室しとんじゃワ
レえ！」

といい出てきたのは、まさにドラゴンという様子の怪獣が出てき
た。顔は厳ついが、目だけおっとりとしている。身長は大体3mメートルぐ
らいのドラゴン。てことは、こいつが！

「出てきたな！ グレドラ！」

「よう来たな！ そう！ 俺様の名前は グレンダ・ドーグル・ラ
ベンダー だ！」

「え、そんな名前だったの？」

と名前を告げたグレンダ・ドーグル・ラベンダーさん。

「ああ！？ お前、倒そうとしている名前を知らなかったんか！？」

「あ、ごめんなさい、グレンダ・ドーグル・ラベンダーさん。王国
の皆はグレンダ・ドーグル・ラベンダーさんのことをグレートドラ
ゴンと呼んでいたので、それが本名かと……」

「お前なあ、名前はきちんと知っておけ！ 社会の常識やぞ！ こ
れだからゆとり世代のバカは……」

「すみません……弁わきまえておきます。」

「わかったなら良い。どうだ。疲れたやろう？ ここまでくんの。
お茶でも出すぞ」

「あ、ありがとうございます」

というわけで俺は、グレンダ・ドーグル・ラベンダーさんと打ち
解けることが出来た。

日が沈む頃ぐらいに俺はグレンダ・ドーグル・ラベンダーさんと
別れた。

はあ、今日は良い一日だったなあ。毎日こうだったらいいのに……
…。

……………。

そうだ。グレンダ・ドーグル・ラベンダーさんを倒すの忘れてた。
まあいいか。面倒くさいし。

ブローグ（後書き）

どうでしたか？

面白く仕上がっていると自分では思っています。
では、次回をお楽しみに！

第1話「報告する主人公」（前書き）

前書き？ んなもんあってもなくてもシラネエヨオオオオオ！ ん
なことより肉をくれ肉ううう（ry

第1話「報告する主人公」

やあ！ 俺はプロローグから登場した主人公を務めているレッド
マスケッターだぜ！

え？ プロローグと全然性格が違う？ こまかけえことはいいん
だよ！

今日は王様ん家に行ってグレンダ・ドーグル・ラベンダーさんの
報告しに行くぜ！

王宮について、王様の前に跪^{ひざまづ}いて昨日の報告をする。

「昨日はグレドラことグレンダ・ドーグル・ラベンダー殿と和気藹
々と話が通じてしまい、暗殺は失敗しました。誠に、遺憾かと思わ
れ」

「あ、別にかまわんよ？」

「なにい！？」

どうして！？ このクソツタレジイが、作戦失敗と聞いたら爆
殺する勢いで爆殺するのに、何で今回は俺を爆殺しないんだ？

「どういうことですか！ おっさ——王様！」

「今おっさんと言おうとしたことは別に良い。実はな、昨日お前が
出かけて行ったと同時に王宮に『幼女ご奉仕隊』という、私には持
って来いのカワウイー子がきてのお、それで、あんな変な気持ち悪
い名前のグレドラ何かどうでもよくなっただんじゃ」

「なんと！」

幼女が王様ごときにご奉仕するのか！ これは何が何でも止めな
ければ！

「クソジジイ！ 貴様如きに幼女何か必要ねえよ！ さつさと俺に
幼女よこせや！」

「お主は熟女好きではなかったのか！？」

「嘘に決まってるだろうがそんなの！ いいから幼女ご奉仕隊渡せ

！」

「おい貴様！ 王様に対して何ていう口を！ 不敬だぞ！」

と、王座の横に居た甲冑姿のクソ蟲野郎が俺の前に出てきた。

「お前（貴様）には関係ないわだろうが！」

「ひっ！」

甲冑変態野郎は後ずさり、元の位置に戻り俯いた。

「とにかく、幼女は俺のものだ！」

「貴様にやるようなものなどこの世に存在せぬわ！」

「なにおう！？」

「やるかのお！？」

と、俺と王様は表に出てこぶしとこぶしの語り合いを日が落ちるまで続けた。

「や、やるじゃないか……クソジジイ……」

「ふん……お主よりは格闘には長けておるわ」

王様は体系は細身であるものの、筋肉、体術は凄いものだった。武道チャンピオン決定戦とかあったら、間違いなくこのジジイがチャンピオンになるだろう。

「ジジイ。今回は同時討ちだったが、次は負けねえぜ！」

「おう！ いつでもかかってくるがいい！ レッドマスケッターよ！」

と、俺と王様は打ち解けあい、握手を交わした。

「ではな。レッドマスケッター！」

王様は手を振り、俺も手を振り替えた。

その瞬間、俺はいつの間にか手に握っていた時限爆弾が爆発し、俺の生命活動はこの時に終えた。

「貴様に幼女を渡すぐらいなら、お主を殺ったほうがマシじゃ！」
と、王様の手にも時限爆弾あり、それに気づいた時には爆発し、

王様の生命活動はこの時に終えた。

翌日、真つ黒焦げになったレッドマスケットと王様は王宮のチンパンジーに無事保護された。

第1話「報告する主人公」（後書き）

何か並ならぬ話になった気がします。
では、次回をお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4592y/>

エロエロブラックナイト

2011年11月14日03時16分発行